

PHP新書「地震予報」読者の皆様へ No.1778長期継続大型地震推定前兆 原稿校了後の前兆変化についての続報

続報 No.318

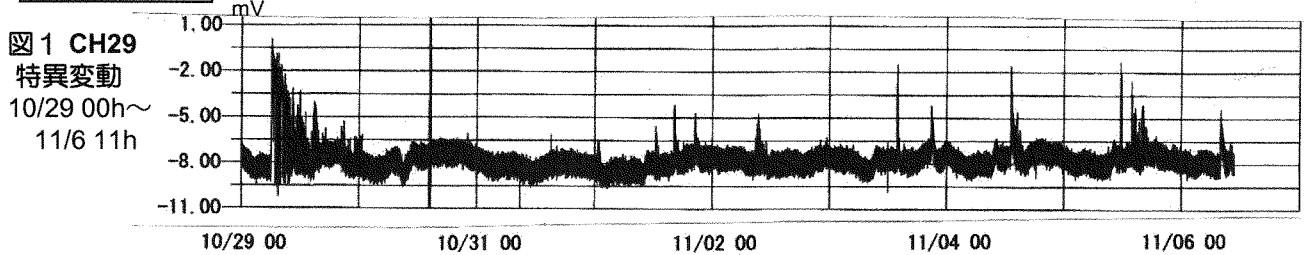
2021.11/06 (土曜) 14:00 発表

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254

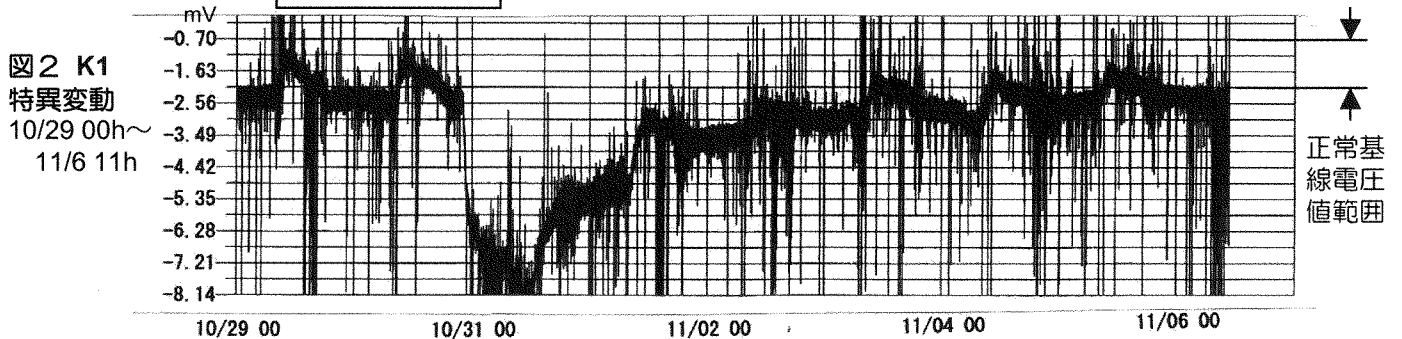
No.1778 長期継続前兆変動 続報 途中報告 残る前兆変動 予想以上に継続中 12月7日 以前の対応地震発生の可能性否定 安全 CH29・K1=完全終息待ち

極大8/8.0認識

11/7 以降終息の場合 → 12/8以降



初現6/6?の場合 → 極大8/13.0認識 → 初現6/6の場合 → 12/17 ± 3
仮に12/17 ± 3発生の場合 = 終息推定 11/15 ±



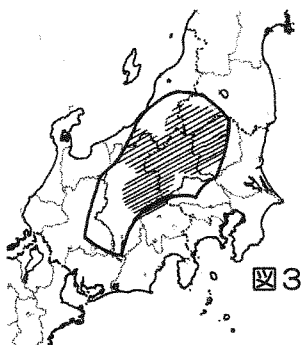
No.1778長期継続前兆変動は2008年07月の初現から13年4ヶ月継続。最大30の前兆変動から、現在の2基の前兆変動(CH29・K1)にまで減少。この変動の終息を待っている状態です。CH29・K1共に予想以上に継続中。

図1の八ヶ岳のCH29は基線から上向きの変動は全て特異変動。10/29の大きな変動以降の変動は小さくなっています。図2の高知観測K1は基線から上下に沢山出ている変動は殆ど流星エコーです。太い大きな変動は時間軸を拡大すると櫛歯変動です。K1は季節により多少の変動はありますが、 $-2.56\text{mV} \sim -0.7\text{mV}$ 範囲が正常基線電圧値です。図2の範囲では10/31の変動が大きいです。それ以外の日も全て基線電圧値が低く、特異状態認識です。

No.1778、ステージ25(現在も25)を遡って見ますと、K1は2021.6/6から特異が継続しています。それ以前は5/14から短い期間特異があります。仮にK1の初現が6/6である場合は、8/8極大との関係で12/17 ± 3発生の可能性が示唆されます。初現が5/14であった場合は2022.1/29 ± となります。現状はCH29に本日も変動が認められることから、少なくとも12/7以前に対応地震が発生する可能性は否定できるということしか言えません。12月上旬までは対応地震発生の

可能性は否定できますので、それまでは安全と言えます。仮に12/17 ± 3発生となる場合は、CH29は11/13.6 ± に終息、K1は11/15 ± に終息の可能性が計算されます。それ以前に終息の可能性も否定はできませんので、CH29・K1の変動の終息を確認次第、続報で報告させていただきます。

観測情報では他の地震前兆変動の識別努力を致します。



- ◆ 推定領域：図3太線内領域 火山近傍
斜線域=可能性考えやすい参考推定領域
- ◆ 推定規模：M8.0 ± 0.3
直前に噴火前兆変動が観測されない限り
近傍火山の噴火の可能性は考えにくい
- ◆ 推定時期：CH29・K1完全静穏化確認後計算予定
仮にK1初現が6/6の場合=12月17日 ± 3の可能性も有
- ◇ 推定地震種：震源浅い陸域地殻地震
- ◇ 推定発生時刻：AM 9:00 ± 2 又はPM 6:00 ± 2